

## 第 40 回 全国選抜高校テニス大会 視察報告

北海道岩見沢西高等学校

清水 遼

平成 30 年 3 月 21～26 日に福岡県で開催された全国選抜高校テニス大会に道テニス専門部から視察研修という形で行かせていただきました。

私は期限付教諭時代を含めて教員歴がまだ 11 年とまだまだ若輩者ではありますが、幸運にもテニス部の顧問を 10 年持たせていただいています。大変多くの力ある顧問の先生方から顧問としての心得や指導法、私が受け持つ部員への指導等、色々な方に支えられながらやってくることができました。しかし、高校からテニスを始めた自分にとって全国大会など夢のまた夢。いつかは自分の学校の部員を全国大会へという想いをもちながらも全道大会に出場すること、そしてそこで 1 回戦を勝ち抜くことの難しさを痛感しながら日々部活指導をしています。そんな中で岩見沢東高校の佐々木先生から今回のお話を勧めいただき、申し込ませていただきました。まだまだ素人同然の自分ですが、初めて目の当たりにした全国大会の報告をさせていただきます。

3 月 20 日に福岡入りし、開会式と抽選会が行われる博多の森テニス競技場に赴き、松浦先生と合流することができ、ご一緒させていただきました。気温が低く、天候も芳しくなく、室内コートでの開会式となりましたが、明日から始まる大会に向けて選手たちのモチベーションも高まっているのを感じました。「選抜から世界へ」というスローガンが掲げられており、全国で勝ち抜き頂点を獲ることを目標にしている学校、全国大会での 1 勝をまず勝ち取りたい学校など、目標は様々だったかと思います。



21 日から大会が始まり、まずは団体戦。私は北海道代表の試合を中心に観戦させていただきました。女子の試合は会場が異なり、男子を見させていただきましたが、まず感じたのが全国大会に出場する選手たちは展開が非常に早いということです。基本的には逆クロスでの打ち合いでチャンスを伺うことが多いのですが、コース、球質共にレベルが高く、仕掛けるタイミングを掴むのが非常に難しい中で、少しコースが甘くなればそのチャンスを見逃さず、回り込んでのフォアから詰めてきます。



北海道勢も我慢して攻める機会を伺いますが、全国レベルのテニスで自分の形に持っていくのに苦慮していました。普段、自分のタイミングで打てる唯一の機会であるサービスゲームを大事にするよう指導していますが、サーブが一番難しいと実感しています。全国に出場する選手はサーブから形を作るのがとても上手く、相手を動かして自分の展開に持っていくことができます。そ

の一方でダブルフォルトの多さは気になりました。ダブルフォルトを含め、相手がアンフォーストエラーをした後に自分たちもミスをして流れを引き寄せることがなかなかできなかった場面が多かったと感じます。特に地区大会レベルでは相手のミスで得点することが多い競技であるテニスで、いかに自分がミスをしないか、相手のミスを誘うかということがウエイトを占めますが、全国大会でも基本的なところは変わらないのだと思います。ダブルスにおいても、前衛の動きや球の置きどころなど非常にレベルが高く、参考になる部分が多かったのですが、しっかり決めなければならないところで単純なボレーミスをしてしまうなど、基礎的な練習の大切さを改めて痛感しました。特にレベルが上がればバックでのラリーから甘くなった球で仕掛けるということが多くなってきます。そこで我慢してチャンスを伺えるだけのバックは必要だと感じました。

最終日には準決勝・決勝と飛行機の時間が許す限り観戦させていただきました。結果だけを見ると、個人戦でスーパーシードに入っていた選手は準決勝からの試合となりますが、男女合わせて4名共、敗退となっていました。明らかに普段のプレーをしている様には見えず、厳しい試合を勝ちあがってきた選手との試合はシード選手といえども初戦ではなかなか思うようなプレーができなかったのだと思います。

決勝戦はさすがにレベルが違いました。一つ一つのストロークの精度がお互いに高く、しっかりとスピンのかかった球を相手のバックの深いところに落としたラリーが繰り返されていました。そういう球に対してしっかりと腰を落として高い打点でさばき、少しでも甘くなれば積極的に仕掛けて点を取りに行く展開になっていました。しかし、どちらに打つかの判断を



間違えると逆に主導権を取られるなど、コートを広く使うことと自分の球で相手をどう動かして展開していくかという考えに基づいたポイントの取り方がはっきりと見ることができました。自分はテニスには一つ一つの打球に意味があり、詰り将棋のようなものだと思っていましたが、決勝はそれまでの試合に比べてエースを取る数が多く、きちんと試合を組み立て合っている結果だと感じました。

研修から帰り、動画を整理していましたが、やはり生で見る全国大会は格別でした。部員にどう還元しようかと大変悩むところです。審判も大きな声ではっきりとコールし、基本的なところも素晴らしかったです。私は30年度、空知支部の専門委員長として動くこととなりますが、自校のみならず、空知支部の躍進にも今回の経験を活かせればと思います。

今回、このような機会を与えてくださった松浦専門委員長はじめ道テニス専門部、岩見沢東高校の佐々木先生、年度末の忙しい中で、快く視察に行かせてくださった岩見沢西高教職員 みなさんに感謝の意を込め、さらに2023年に北海道で開催されるインターハイに向けて、テニスに青春をかける北海道の未来の高校生がさらに活躍できることを心より願ひまして報告とさせていただきます。